

2020年7月7日(火)

初等外国語教育法1組(12時50分～)

初等外国語教育法2組(14時40分～)

“Tell me and I will forget, show me and I may remember, involve me and I will learn.”

“現実感覚がなければ生きていけない。理想を持たなかったら、生きている資格がない。”
(レイモンド・チャンドラー『プレイバック』より)

講義の前にやっておくべきことを記しておきます。

①事前に教科書(第9章)を十分に読み込みます。9章はとても分かりやすく書いています。テストにしやすい章ですので(笑)、十分に読み込んでください。唯一絶対の教授法はありません。みなさんが学習者の実態に合わせて、また指導環境に合わせて、取捨選択し、時には組み合わせる必要があります。

②ですから、2節として「児童に合った望ましい指導法とは」という節が設定されており、3節には「外国語の授業で活用したい指導技術」さらに4節では「指導形態に応じた円滑な指導のために大切なこと」という節が配置されています。

③併せて、私自身が別の教科書のために書いた「教授法」についての資料も添付しています。特に言語習得理論を意識して書いています。こちらのほうも十分に読み込んでください。

講義中にやることを書きます。

講義では教科書や資料を説明することはしません。読んだことを踏まえて、①みなさんがどのようなことを学んだのか、また、②どのような疑問を持ったのか、さらに③小学校の授業ではどのように活用できそうか、などをグループ(教科書にあるALです)で話し合ってください。この話し合いに45分をとります。その後、グループでの話し合いの発表とまとめに45分をとります。

ちなみに、8月4日または8月11日にテストを予定しています。テキスト、資料などを十分に理解してテストに臨んでください。広範囲のテストになりますので、当然のことですが、計画的に学習を進めてください。

第9章 指導方法と指導技術

1節 外国語の授業で活用できる指導法

1. Communicative Language Teaching

- ① 特徴
- ② 授業での活用

2. The Natural Approach

- ① 特徴
- ② 授業での活用

3. Content-Based Instruction

- ① 特徴
- ② 授業での活用

4. Content and Language Integrated Learning

- ① 特徴
- ② 授業での活用

5. Task-based Language Teaching

- ① 特徴
- ② 授業での活用

6. Total Physical Response

- ① 特徴
- ② 授業での活用

2節 児童に合った望ましい指導法とは

1. 発達段階と学習段階

2. 授業時数

3. 学習者の特性

4. 母語の役割

- ① 児童の母語指導
- ② 指導者の母語使用

3節 外国語の授業で活用したい指導技術

1. アクティブ・ラーニングと共同学習

2. 発問, 指名の方法

3. 活動形態

- ① 目標と目標達成に至る学習過程に応じて選択する
- ② 児童の学習段階や心理面に配慮しながら洗濯する

4節

1. 単独授業

2. 学級担任による単独授業で大切なこと

3. ティームティーチングで大切なこと